

911.3
ホ
冬

六七
巻

新古今和歌集

冬

發句五百題目錄冬之部

十一月

林喜月

天古布

新時象

雨の市

初冬

防生燦
吹華象

炉開

林の市

遠く忌

生草成忌

屋臺忌

雪降る海

宜也忌

雨

袴忌
梨忌

初雪

雲

小春

木の葉

数紅葉

落葉

枯尾花

粘野

枯柳

枯草

枯草

木の葉

三きり

鳥の鳴

鳥の鳴

木の葉

炭



櫛	巨欸	湯	牡丹	水	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
豆	石菘花	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
山菜	菜の花	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
ハツ子	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
山	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
信	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
網	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
裘	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
布	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬
倉	冬	牡丹	冬牡丹	冬	冬木立	夜無鬼	生法前	新見世	冬の燗	冬	冬

十二月

師	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
羅	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
袴	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
如	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
袖	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
衣	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
飯	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
年	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
志	冬	冰	冰	冰	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬



目錄終

杜文魚

本家とと森

除夜魂象

雜記二

舟中樵

梨洲雜句

星伴

宮見

大晦日

冬恨歌

茶著

除夜

發句五百題冬之部

其角堂永機
雪中庵梅年
對櫻軒堤雨

編 畫

十一月之部

林喜月

恒若や林喜月とばかりそれ古

世の中をくくくく林よ林喜月

暮の影を紅葉のくくく林喜月

雨の市

落葉がくくく雨の市

雨の市をくくく雨の市

天長荷

古の歌や天長荷とくくく

雪主

梅宿

涼風

荷章

永機

全

初霜

初冬

天長く地ながく冬は
 交りし日只指す初霜
 初霜の清き雪の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに
 初冬や初霜の如く思ひに

指直
 鷺笠
 其水
 枝玉女
 蘆水
 木寶
 來杖
 巴郷
 如牛
 碧海
 涼風
 猶蟻

初火



○冬

山火燔

吹革系

炉開

井の取

清き燎や大なりたるるの影
 山火燔や不事水にぬるる魚
 吾あぬ系や吹革を音あり門
 音あり吹革ありの秋明う丸
 松開や古ありの又形くーる
 炉開や炭位火き二回の小一四
 炉をさす響はあり雨一と日
 炉開や時のそめくーる 灰の色
 井在るに當るに庭の日初る如
 人のたのく井の留るまふト
 松葉を吹掃く程るの井の通
 孫く子清くまそや井の松

蓮摩忌

芭蕉忌

蓮摩忌や松の影に枝一ツ
 蓮摩忌や雪の城のうら味
 蓮摩忌や宿よりくく白く木
 蓮摩忌や秋の懐くく豆磨け
 蓮摩忌や春の松吹風
 蓮摩忌や庭のぬりて抽きて釜
 菊忌や庭向かしく下の香
 余り神は易も我時に在る宿に
 知る人共そよくそー松尾不
 共ありぬるや時西の十二日
 松原より月も時面も宿の如
 水仙の子望し下り翁九の口

蕪村 静和

花朝女

梅年

蓬宇

可洗

梅雅

永機

凉坪

雪潮

收之

其石

桂月

素石

雲磨

大喬

菊雄

春湖

霞汀

雪朗

敬樹

碧海

保年 竹葉

岩重忌

五月十日

松を以て作らるる... 岩重忌
 古昔我皇也... 岩重忌
 苗孫や何と... 岩重忌
 招福の事... 岩重忌
 方子... 岩重忌
 日た小... 岩重忌
 時雨より... 岩重忌
 時を... 岩重忌
 又... 岩重忌
 亦... 岩重忌
 時雨... 岩重忌
 雨... 岩重忌

涼風
 其石
 松月
 快雅
 梅年
 永機
 梅年
 猶蟻
 巨石
 蓮州
 素水
 梅誓

古時保

室也忌

時雨

夫... 室也忌
 加人... 室也忌
 出也... 室也忌
 町... 室也忌
 胎... 室也忌
 丸... 室也忌
 始... 室也忌
 矣... 室也忌
 毎... 室也忌
 始... 室也忌
 始... 室也忌

永機
 道彦
 玉馬
 花月
 芥舍
 等裁
 羊山
 如竹
 鳥牙
 敏樹
 醉甫

雨時雨のちりき忽れ可蘇
 我老に暮のほく暮やうの時
 折跡を本職きく時雨
 路公始に地口聚りやまの時
 如く亮の折まきかきり初時
 尾下奥へ移住し初初
 法系也時雨の路は夕々
 時雨の路をききききき
 心くを城引り久時雨う丸
 梅のちをばた子河り小春時
 手と陣多き時雨を付者
 至りし時雨をり時雨う

猶 蟻
 三 蓼
 秋 丸
 中 庸
 雪 襄
 正 義
 收 之
 守 水
 如 牛
 半 山
 雲 臺
 羽 洲

法共しやわくわく時雨
 一時雨をては出ぬ新木少
 真々ありしあきし時雨
 子よりし社出りし時雨
 果ててわくわく時雨
 片細き月のあかや村時
 夕時雨山うき山うき
 若くは暮るる時雨
 時雨且に必咽る山
 奉ききい終らりし時
 一時雨月し時雨
 お懐の情をいし時

晚 香
 全 桃 年
 梅 仙
 全 雪 雀
 清 川
 鷺 朝
 芦 洲
 芝 水
 喜 延
 蓮 州

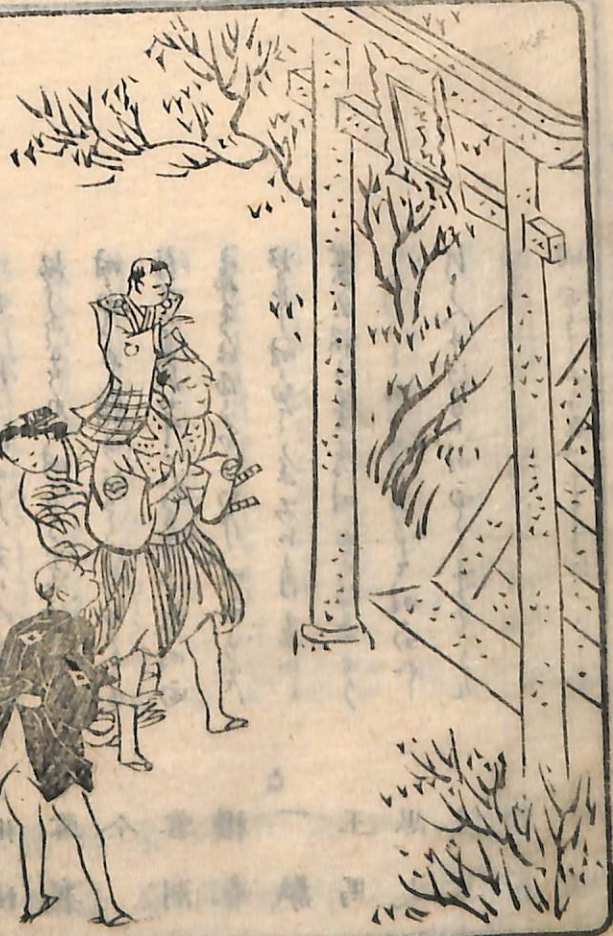
時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に

黙平
 可尊
 青曉
 云亭
 巨石
 山邦
 竹詞
 此鼎
 采橋
 松雨
 逸風
 機一

時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に
 時雨の音も静かなるに
 今も只時雨の音に
 寂しき心も時雨に

年華
 梅枝
 雪裏
 全
 雪湖
 機春
 亡一
 玉馬
 思文
 壯山
 竹茵
 方冰

修善



修善
終玉
初玉

終玉之自之極南の〜
修善を修善 修善の極
修善の中を〜
終玉の中を〜
終玉の中を〜

初代

左 方 梅 抱 猶 永 湖 蓮 三 牧 里 醉
岳 水 年 清 蟻 機 十 州 芝 水 發 南

霞てぬらしたるはもよほやいぬの葉
雲よりあふ雲のこぼれ舟つらり
池のまゝもつりつりゆきもよほねり丸
雲をねらうつりゆきもよほねり丸
酒場のさびしうつりゆきもよほねり丸
松竹のさびしうつりゆきもよほねり丸
雲は雲ゆきもよほねり丸
川舟のさびしうつりゆきもよほねり丸
雲もよほねり丸
雲もよほねり丸
雲もよほねり丸
雲もよほねり丸

琴 颯
梨 塘
古 惠 珠
鶯 雨
如 竹
蛙 水
袖 丸
芦 洲
竹 哥
喜 寶
龍 吟
雄

梅 仙
貞 砂
三 猿
貞 砂
仙 外
乙 義
素 直
正 義
大 喬
愈 喜
抱 清

不 尤
梅 仙
貞 砂
三 猿
貞 砂
仙 外
乙 義
素 直
正 義
大 喬
愈 喜
抱 清

小妻の機屋あつて... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...

百汲
 機二
 雪磨
 奇英
 三猿
 竹堂
 聽雨
 全
 三芝
 螢花
 小山人
 可朝

木の葉

小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...
 小妻の... 小妻の...

可堂
 倭草
 川漲
 桃年
 蕙曲
 壽守
 壽谷
 完鷗
 梅州
 荷章
 涓水

〇

九

人平明也 乃う大や 枯尾の
 自招く 女に於佛一 枯尾 峯
 尾の 竹住 町 是 兄と 枯すき
 中世 あり 枯すき 是 尾 尾 尾
 明く 是 夕 月 御一 枯尾 峯
 枯すき 又 あり あり 尾 峯
 兄 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 この 上 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 村 田 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 あり あり 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 あり あり 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾

壽 守 曉 柳 雪 裏 清 川 吏 中 敏 樹 巨 石 方 水 完 鷗 一 連 鳥 梅 年

枯野

望 梅 山 川 枯 尾 峯 尾 尾 尾
 目 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 春 袖 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾

有 川 晋 泉 清 川 猶 蟻 如 竹 如 牛 三 芝 孝 節 琴 颯 梅 州 梅 宿

此...の既経菜の小瓶町
 田や浮任...の小舟
 采の流や...の山あり
 采に...の...
 采...の...
 采...の...
 采...の...
 采...の...
 采...の...
 采...の...
 采...の...

如竹
 曉柳
 玉馬
 蓮州
 遊浦
 知雲
 兎月
 螢所
 文岱
 琴颯
 一聲
 梅年

きり

きり

千鳥

采の若城...
 採花女
 花庭
 倭草
 對几
 應波
 都圓
 魯水
 晉水
 素石
 全
 桃年
 遠塵

採花女
 花庭
 倭草
 對几
 應波
 都圓
 魯水
 晉水
 素石
 全
 桃年
 遠塵

如牛
 清川
 小邦
 霞流
 一遊
 倭草
 枝玉女
 荷草
 月池
 半山
 竹調
 里發

如牛
 清川
 小邦
 霞流
 一遊
 倭草
 枝玉女
 荷草
 月池
 半山
 竹調
 里發

本
 炭

如牛
 清川
 小邦
 霞流
 一遊
 倭草
 枝玉女
 荷草
 月池
 半山
 竹調
 里發

花弟
 旭の本
 梅年
 永機
 指直
 文岱
 詢莨齋
 機春
 粟裏
 素粒
 竹香

引以屏風を巻の白ひうぬ
 巻く人かねとて思ふいふり
 松標本紙のつくりの巻火印
 巻書や巻うらむらぬ一煙り
 巻よふ巻くまへ人かね巻
 巻火印一巻紙巻のうらむ
 巻火印巻く雨の日は巻紙巻く
 巻火印巻く巻くつげに巻紙の
 巻火印巻く巻くつげに巻紙の
 巻火印巻く巻くつげに巻紙の
 巻火印巻く巻くつげに巻紙の

左丈 應波 梅仙 荷章 聖朗 可洗 其仙 素朴 蕙畝 一水 梅誓 永機

橋

橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに
 橋のまへに橋のまへに橋のまへに

收水 三芝 一大 秋外 秋水 柳僊 貞砂 旭の本 竹葉 竹香 連水 晋泉

織るはに〜の女をうす神に

嘆息少く空を望みく火梅に

松原を空梅のからす藤の上

静をかく未生や理〜火の崩也

廻るは梅は若の古梅より丸

理生やゆりぬり初を未の女

理生やゆりぬり城こや一層のあり

理生やゆりぬり階は星一つ

理生や人の老さは手にあつた

柔煙りの〜はゆりゆりゆりゆり

危も南を老ありとありゆりゆり

か〜ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

機月

喜室

松翠

華谷

紫柳

壽守

雪潮

古秀民

三猿

鷺朝

花夕

晋江

頭巾

巨憵

巨憵

花をいふは〜花りや

別れや交情の才はを巨憵

女をいふは〜巨憵くぬ

石女の猶りや〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

巨憵くぬ〜巨憵くぬ

愈喜

成雅

華谷

五秀

可朝

五馬

三千代

機春

雨石

茶城

尚九

山茶花

山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月

可金 倭草 梅仙 快雅 花夕 里發 左丈 言海 梅宿 翠葉 螢所 守水

石菖花
枇杷花

序石

山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月
山茶花のやうなうらなひのこ下月

遊甫 抱清 百波 水機 驚朝 不尤 花小 雲朗 江戸女 江波 鶯雨 全

暁のそとに斗のそとに陽り花

紅葉より散るるに河の海見も

落る葉も夕暮るは陽り花

月の影は夕暮るは陽り花

午多き日又一つは夕暮る

柳の葉に陽り花の影

山里の夕暮るは陽り花

いづれか一葉の夕暮るは陽り花

夕暮るの夕暮るは陽り花

暁のそとに斗のそとに陽り花

葉の影に夕暮るは陽り花

葉の影に夕暮るは陽り花

半山

晚香

苑好

一遊

九岳

雪窟

琴颯

梅宿

雲臺

碧海

一遊

曉柳

牡丹

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

牡丹の影に夕暮るは陽り花

納誠

桂月

快雅

指直

正義

永機

言海

素石

文岱

霞香女

機春

可朝

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

牡丹

水香
鴨
浮藻香
響
響

芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ

翠松
牧水
此山
採花女
芹舎
雪潮
可洗
青我
舉白
遠塵
梅幸
山邦

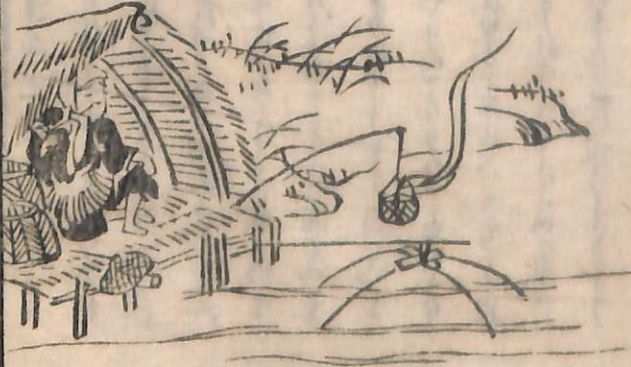
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ
芙蓉の白くを雪の如く夕アハ

里發
竹香
松月
龍吟
採花女
完鵬
雪朗
淡水
桃李
梅宿
碧海
朝暉

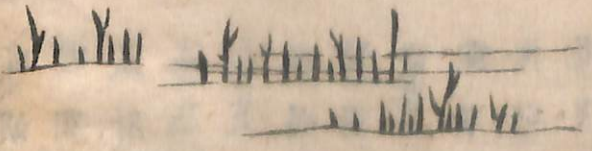
○冬



相代



干



大根引
于久招

冬本立

冬本立の意のあらぬ、大根引の歌は、
 舟の冬より、舟の冬より、鴨のあり、
 桂舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、
 舟の冬より、舟の冬より、舟の冬より、

蛙水
 うつら
 大喬
 全大
 樂成
 一大大
 可朝
 鷺朝
 可美
 樂成
 素青
 倭草

綱代
望候
くつ屋

生海流
依名

雪 朗
雪 湖
鼠 肝
連 鳥
三 芝
自 唱
驚 朝
霞 香 女
雪 潮
梅 宿
花 月
推 陰

和 圖
象

完 臨
碧 海
山 水
三 千 代
梅 仙
清 川
文 岱
梅 年
蛙 水
秋 丸
如 塵
芝 水

〇

五

新 兄 世



霜月朔日の例を

法師也

山嵐芝居村をい新

其角

表無引

寸まのり小宮の表無引

表無引の表無引の表無引

表無引の表無引の表無引

表無引の表無引の表無引

琴颯

指直

言海

永機

〇冬

又正一

雲

数

葱

如乳子於火中...
 降止...
 面...
 明...
 雲...
 自...
 市...
 葱...
 葱...

予雲
 松月
 芝水
 思雲
 霞流
 碧海
 云亭
 古杉
 不尤
 永機
 丹霞
 巨石

彩又世

十 五

有...
 如...
 蓬...
 空...
 新...
 新...
 月...
 為...
 人...
 東...
 西...

言海
 其仙
 正義
 萬村
 梅年
 蓮州
 青山
 碧海
 雲雀
 三猿
 梅仙
 梅仙

第三池

〇

二二

男の子は蘇のまをばり取紙

其々幸の清く神くういふ名紙

聖の口を待たるがく一法不紙

悪名年似てぬぬさ紙十数紙

少名武の忠やんや月名の忠

法士の人の涙もろくさ法字據

世に人の林もさるる林も出うぬ

新くくくくくくくくくくくく

其の好くくくくくくくくくく

林も男のま流りもあつて由盛紙

新紙も流りもあつて由盛紙

鷺朝

三千代

三猿

春湖

遠塵

對几

霞香女

可美

花月

永機

朝暉

五馬

奪式

神樂

冬の帳

冬椿

師生

雲

輝出さぬ動も出たり冬紙帳

冬暮りも流りもあつて由盛紙

藤の上欄むらり冬暮りもあつて由盛紙

冬暮りも流りもあつて由盛紙

花を流りもあつて由盛紙

十二月と紙

人よ付て師生の自然法甲より

洞るは喜ゆゆの初め流りもあつて由盛紙

行きて人よ付て師生の自然法甲より

流りもあつて由盛紙

初雪も流りもあつて由盛紙

管水

碧海

木寶

遊甫

壽守

芥刪

岱山

愈喜〇

北翠

一聲

永機

雪



初雪 冬 晴 雪 止 方 乃 矣 乃 乃
 初雪 不 下 一 竹 花 乃 悦 乃 乃
 初雪 大 雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 初雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 初雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 初雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 初雪 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

翠 鳳
 秋 九
 蓮 州
 松 翠
 唇 風
 碧 海
 荷 葉
 大
 倭 草
 聽 雨
 震 谷
 大 洞

信州

篠原やわづらも空積津より先
帆柱を陣埋り水七取の空
積津も多き海入るも水の空
子有きも水陣着るも空は海
ありまも又出るとや空 砥
白きも陣中も空 空 佛
是る物も目の様も空 空の空
大空も空も別うも空 空 空
空の上の空も空の空 空の空
積津も空も空の下も空の空 空
空も空も空も空も空の空 空

常水
花由
秋丸
巨石
蓮州
云亭
唱月
梅仙
梅仙
連鳥
大喬
三十一代

純三池

空を空も空も空も空の空
空の空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空
空も空も空も空も空の空

花庭
范月
正重
雨石
山水
和鶴
池月
素粒
半山
琴松
如竹
思文

木の檜子、始は長く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、

保年
二光
理明
芥刪
梅宿
淡水
竹良
吳仙
採花女
素柳
霞流
梅伍

重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、
重く、重く、重く、重く、

梅幸
貞砂
壯山
貞山
企
魯水
花晴
雪潮
秋丸
茶飾
舉白
可洗

氷
柱

氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ

梧堂 逸風 鳳樓 遠塵 蛙水 烏牙 方水 藹村 梅年 此山 羊山 九峯

氷
八

氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ
 氷柱の影は氷柱の影をうけ

山邦 芝水 貞砂 霞汀 松月 翠颯 月窓 快雅 花弟 南溟 竹茁

鷹
好



小舟月大船渡りてはきんこ
陸山なすこしきよきつて
人かきふきつては道人の
なきわいば蒼子とて松
なききりて女まま物
なききりて女まま物
なききりて女まま物
我影を踏りて月日なき
南斗をくく相田村なき
なききりて女まま物
機屋をくく相田村なき
なききりて女まま物

信州
機屋 春橋 梅宿 柳樓 喜延 渭水 舉白 雲臺 左岳 竹葉

伊予守 高き山 森茂 花月 三猿 芦川
静寂 柳公 高き山 桃年
さう あり 山守 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山

イナハ
如牛 花晴 曉柳 貞雄 倭草 連鳥 抱青

甲子集

辨 甲

伊予守 高き山 森茂 花月 三猿 芦川
静寂 柳公 高き山 桃年
さう あり 山守 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山
山守 あり 柳公 高き山

月居 涼坪 全 霞存女 碧海 鳥牙 雨石 一水 全 其石 一雄 驚朝

〇

一十九



権

鍾
水

河

味

磨

情
和

厚形を夕アハ馬より鐘つき
 厚きわゝ共着るるぬ清くき
 降くはくき清くきぬ鐘水
 初をを持くは水もをき
 清くぬや大なるはつ河をつ
 ぬくはぬぬきぬきぬきぬき
 初ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 磨けぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 磨ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 手ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

中の雄
 永機
 連水
 千里
 静和
 船賀
 琴颯
 竹虫
 柳僊
 袖丸
 琴颯

幸若者

風呂吹

納豆

敷上る時礼以ふりぬる若者

為る事多し友時すも、暖者

暖者言ひたりぬ一程の暖者

暖者言ひたりぬ一程の暖者

より居る事、物もいふ、淡者若者

大器言ひ、物もいふ、淡者若者

淡者言ひぬる言、入ぬ大器時

風呂吹や、言、此器の言、初め

風呂吹や、言、此器の言、初め

納豆や、言、物、押、う、ま、る

納豆汁、物、物、降、赤、が

納豆、言、此器、言、初め

文岱

袖丸

朝暉

千尋女

淡水

喜延

春湖

朝暉

尚九

芦洲

竹葉

螢所

柚

納豆

冬梅

冬梅

冬梅

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

冬梅、言、此器、言、初め

敬樹

全

孤月

護靜

荷章

松雨

泰嘉

淡湖

如山

守月

詢薨齋

考 條
冬 筆

此の字やわがら多し 冬の内
秋の意に富きふふ 冬の内
跡はふふ麻の書や冬の内
冬の内 冬の内 冬の内
雲々の山の海や冬の内
跡はふふ麻の書や冬の内
冬の内 冬の内 冬の内
冬の内 冬の内 冬の内

信州
大洞 静和 方水 芥剛 梅宿 月渚 聖窟
素石 雲主 鳳齋 快雅

事 始
殊 耕

此の字やわがら多し 冬の内
秋の意に富きふふ 冬の内
跡はふふ麻の書や冬の内
冬の内 冬の内 冬の内
雲々の山の海や冬の内
跡はふふ麻の書や冬の内
冬の内 冬の内 冬の内
冬の内 冬の内 冬の内

殊 耕
北翠 連水 永機 梅年 良和 三津人 等哉 孝節 月得 護静

後
茶喫

梅一里八峰千海千煤の鉄
す掃ゆる若若ぬく方のひきさう
あふ人の跡あふま也煤埃里
煤まきさる煤埃のひきさるの
煤掃の軒子掃ぬ夕のうす
煤まき記の中にああきさ煤
煤掃のまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる

可堂
ふつら
來杖
壽守
如牛
鳳樓
斧剛
梅年
一遊
霞流

五玉

衣配

年の市

耳のつくりの巻也茶喫
中産作俄揮陳也そお梅
四りお結屋の中あふまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる
あふさるまきさるまきさる

越仙
松月
半山
龍遊
黙平
碧海
柳子
華谷
晋泉
此鼎
涼風
猶蟻

年高

歸之養之言其子也與帝曰意

上其子也自曰樂之與也

上其子也自曰樂之與也

而亦之物降情之也子也

而亦之物降情之也子也

而亦之物降情之也子也

而亦之物降情之也子也

而亦之物降情之也子也

而亦之物降情之也子也

偕焉

偕焉也偕也之也偕也

偕焉也偕也之也偕也

柳子

永機

靜護

其仙

三猿

壽守

花夕

一聲

琴廳

芦洲

淡水

古履

古履也履也之也履也

那獲

那獲也那獲也之也那獲也

昔昔

昔昔也昔昔也之也昔昔也

佛佛

佛佛也佛佛也之也佛佛也

孔烟

孔烟也孔烟也之也孔烟也

琳也

琳也也琳也也之也琳也也

池月

有川

梅年

其仙

雨石

兜岫

永機

芳處

云亭

護靜

左丈

謝家

杜其

身姿

圖見

錄著

討の身の姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿

袖 九
 永 機
 梅 箱
 光 玉
 壯 山
 螢 所
 雪 湖
 玉 馬
 螢 花
 對 山
 國 外
 如 竹

行船の身の姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 身姿の杜其の身姿の杜其の身姿
 杜其の身姿の杜其の身姿の杜其の身姿

作州

可 洗
 今
 三 芝
 真 海
 花 鵬
 花 殿
 露 女
 桃 年
 月 窓
 機 月
 琴 颯
 鬼 笑

和布 新 作 事



行年や人の性為の初ふに
 行年の中は美し一箇一福活
 昔は徳は種は雨未なり、年の中
 春は行年よき人、春の行年
 子孫をよきものなり、年の中
 佳しなり、年の中、年の中
 無事、年の中、年の中、年の中
 年の中、年の中、年の中、年の中
 年の中、年の中、年の中、年の中
 年の中、年の中、年の中、年の中
 年の中、年の中、年の中、年の中
 年の中、年の中、年の中、年の中

節堂 孤松 曉柳 壽守 雪裏 琴颯 機春 完鷗 鳳州 抱清 謁村

和布川
新子

大嶋日

陰来

ふきよの夜の露の

梅の鐘の音の

天竺の法衣の

嬉しさの法衣の

以中に耳の音の

風もあつて年波の

ふりかたの松の

徳家もあつて松の

俗物もあつて松の

坊主もあつて松の

門押もあつて松の

袖九

朝暉

霞汀

螢花

木實

猶蟻

尚九

鳳二

松月

逸風

聽雨

松月

舟より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

舟中より松の影

雪湖

春湖

永機

車水

不平

舞中

柳橋

暮牛

涼風

華山

遠塵

快雅

冬濕靴

星佛

陳春
魂来

〇

三七

藤の青の葉の如くして
 花の白の葉の如くして
 梅の白の葉の如くして
 橘の白の葉の如くして
 桃の白の葉の如くして
 梨の白の葉の如くして
 杏の白の葉の如くして
 李の白の葉の如くして
 桃の白の葉の如くして
 梨の白の葉の如くして
 杏の白の葉の如くして
 李の白の葉の如くして

花月
 巨石
 翠颯
 愈喜
 碧海
 竹香
 素粒
 正義
 苑好
 指直
 悟秋

不 二

不 二

雜

松の青の葉の如くして
 竹の白の葉の如くして
 梅の白の葉の如くして
 橘の白の葉の如くして
 桃の白の葉の如くして
 梨の白の葉の如くして
 杏の白の葉の如くして
 李の白の葉の如くして
 桃の白の葉の如くして
 梨の白の葉の如くして
 杏の白の葉の如くして
 李の白の葉の如くして

五休
 壯山
 蓼太
 蓮州
 松民
 竹萬
 悟秋
 猶蟻
 梅年
 永機

近加四時遊歌

結城のふし白の枝葉の燈
空垢解の模敷もや風は月
昔の書々物々水々々の月
清くぬく柳の折遊人々々の月
世々々々々々々々々々々々々
梅也ーまー照さる好景あー
来しや月夜うらやまう小燈
ふさりの書々々々々々々々々
月海一清行流平淡遊馬
空の夜の雲々々々々々々々々

三春
桃里良全尚指
壺發和全丸直
全全全全

沖舟の伊勢の祝の舟の燈
目のたつく物々々々々々々
あつて夏の海ゆき東出不二
書々々々々々々々々々々々々
彼は月夜清くもつと月海の燈
来しや月夜のさな柳の丸
空に月さす夕景は月の書々
月海の書々々々々々々々々々
あつて月夜のさな柳の丸
あつて月夜のさな柳の丸
あつて月夜のさな柳の丸
あつて月夜のさな柳の丸
あつて月夜のさな柳の丸
あつて月夜のさな柳の丸

全全
碧海
半仙
壽道
桃壺
全全全全
良大
梅宿
全全

竹如也 瓶石に傍好 ぬきす
 日と怪し 障道 久し 林徳業
 陣 夜 象 ぶか 考 記 在 さまのり
 古 西の 懐 乞 萩 吹 出 末 末 一
 山 花 野 人 子 子 産 後 初 月 花
 の 上 早 下 海 志 兄 也 子 中 下
 深 心 上 子 法 子 日 の 乃 乃 乃 乃 乃
 時 中 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 降 志 法 障 考 一 如 乃 乃 乃 乃 乃
 炭 窟 然 汝 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

梅 宿 全 全 全 全 全 全 桃 壺 全 全 梅 宿
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 桃 壺 全 全 梅 宿

冬 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
 同 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 異 休 の 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 不 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 孟 の 上 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 吹 乞 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

桃 壺 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 梅 宿 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

後句五百題終



明治十五年十一月十五日出版御届
明治廿一年二月 再版

東京府南葛飾郡小梅村六十四番地

編輯人

晋 永 機

全

全 府深川區龜住甲八番地

眼部梅年

出版人

全 府小石川區小高水道端甲三丁目十番地

伊藤 正方

全 府芝區櫻田本郷甲三番地

發行所

金 鱗 堂

故

三

高
鑑
此
三
長